

『戦場の旅行者』

— 私とVECの意外なつながり —



「Operation Defensive Shield」。確か日本語では「守りの盾作戦」とか「防御の盾作戦」などと訳されていたと思う。

2002年の春、過去10年間私が見てきたイスラエル・パレスチナ紛争の中でもひとときわ激しい衝突が発生した。連日続くパレスチナ人による自爆攻撃とイスラエル軍の報復的空爆、そして侵攻。イスラエル軍はその軍事作戦を「Operation Defensive Shield」と名付けた。激化する戦闘の中、我々報道関係者はいつ自爆に巻き込まれるか、あるいは戦闘員たちに誤射されるかと戦々恐々としながら取材をしていたのを覚えている。

イスラエルは聖地エルサレムやキリストの生誕地ベツレヘム、そして死海を有する観光国である。しかし状況から考えていただければ分かるように、さすがに軍事作戦下のイスラエルを訪れる観光客はいない。やや狂信気味の巡礼者を除けば、ほとんどの外国人は報道関係者か人道支援活動をしているNPO、NGOスタッフだ。

そんな状況の中、ある晩、産経新聞の特派員と共にエルサレム新市街の路上で食事をしていると、30代後半の日本人男性に声を掛けられた。

「日本人でっか？」

関西弁である。どこかの新聞社の記者だろうか…。長い髪を後ろ結び、細身のパンツを履いたその姿は記者やカメラマンではない。訊けば――

「観光で来てますう」

と、にわかには信じがたい答えが返ってきた。会社を営んでいるというこの男性は、何故だか銃器類にやたらと詳しく、戦時下のイスラエルに“観光”で滞在しているという。「こんな怪しい人間とは関わりたくないなあ」というのが私が持った最初の印象だ。これが、VEC会員であるEDコントライブ社長（当時）川合アユム氏との最初の出会いである。

最初の印象とは裏腹に、「人間力」というものを重んじる川合氏の話や行動は実に魅力的で、その後、数日間は大いに呑み、大いに語り合った。若い頃の（本人いわく）チンピラ人生、会社経営に至るまでの経緯、社員の可能性を信じて推進するPD（プロジェクト・ドライブ）制度など、それらの話のすべてが斬新で面白い。そして銃器類に詳しいのは実は趣味でサバイバルゲームをしているからだということを知ったのもこの時だ。彼とは年齢に近いこともあって、お互い盛り上がり、ある夜には軍や警察の検問を2つも通り抜けて会員制のバーに行ったこともある。半ば命がけで酒を呑みに行ったのは、後にも先にもこのとき限りだと思う。

帰国後、川合氏からVEC関西支部での講演を依頼されたのはこんな経緯があつたことだ。そしてこの講演がきっかけで、経営者の方々から大なる支援を受け、私が現在主催する「TTLプロジェクト」が発足することとなるのである。

<http://ttl-news.com/>



添付写真：防弾ベストを着用する私。イスラエルにて。

ドキュメンタリー写真記者
森口 康秀

「わたしの夢」

前編

早いもので、私が社長になって33期目を迎えています。祖父が1912年創業した稲穂印の和田金庫店が始まりです。

「実るほど頭を垂れる稲穂かな」の精神は今でも常に心に留めております。

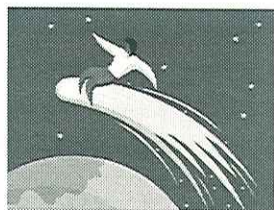
現在手がけている製品は精密鋳金を基礎に環境機器（製水機・ソーラー機器・油脂分解装置）・各種精算機・ゴルフ練習場機器等。

企業を上場させ、社会に貢献したいという「夢」を実現させるため為、川上の仕事を目標として自社製品の企画、開発、製造販売を推進しています。

コナミ様を始め取引先様で上場された企業も数社あります。弊社は未だ上場には至っておりませんが、常に自社商品を大きく育てて上場したい思いに溢れております。しかし自社単独展開にも限界があり、パートナー企業との提携も模索しながら経営しております。

昨年は断腸の思いで自社工場の売却を行いました。全社員の汗の結晶を失いましたが、今は原点に立ち戻り、第二創業の気持ちで社員ともども日々を積み上げております。

等々振り返れば現実と希望の狭間で戦い続けた32年間です。



社会では人の心はどこに？と思われる事件が頻発しております。物と欲に執着する人が多いのでしょうか。自社の利益追求を第一義でなく、「心を教え育てる企業」に創り上げるべく努めております。現在は、21世紀に始まった「心と愛和」の時代に移行している途中の一番暗いトンネルを通過中です。今まで経験したことのない未曾有な事柄を経済・教育・社会のなかで見せられ、「気・精神」の時代に入れ替わる時期だと確信しております。

家庭・地域社会の再生を図ると同時に、私も企業人として、全国の企業家と連携し、人を育てる活動を進めたいと願っております。全国の一宮神社を参拝し、各地の企業家と昵懇に「心の時代の企業のあり方」を話すのが私の使命と思っております。

その為にも、現実社会で認められる企業を創り上げ、皆様の認知をベースに各地の企業家と手を携えて世直しを進め、「心の時代」を拡げていき、心豊かで安らかな人生が送れる社会を作りあげたい。それがわたしの夢です。

<続く>

和田金属工業株式会社
代表取締役 和田 憲一

座禅三昧の一日

“「無」になるための修行「禅」に関心のある者よ、集まれ!”

本田VEC関西支部長の呼びかけに応じて23人の善男善女が集まった。

日時は10月11日、10時半。場所は、比叡山の「最乗寺」。ご指導いただいたのは高川慈照師(写真)。



まず、本堂の前で、懺悔文を全員で声高らかに唱えてから、本堂に入る。丁寧に体をほぐしてから拍子木の音によって座禅開始。無になるための修行? 残念ながら、雑念が次々と湧いてくる。運動会の放送がどこからか聞こえてくる中、20人を越すメンバーがジーンと黙って座っている…そんな状況に今まで居たことがない。知らぬ間に、その場の状況を頭の中で実況放送したりしている。思えば、無になろうと考えるそのこと自身、雑念ではないか。

半眼で目の前1mほどに見える青い畳の縁を見つめることにした。体の安定が悪く、前後に揺れるような気がする。落ち着かない。合掌をした。警策を頂きたいとの合図だ。両肩より背中にかけてピシーっ、ピシーっとなぐられる。結構痛い。しかし、不思議だった。それで体の芯が一本通ったのだろうか。途中で一旦休憩が入り、前後合わせて45分の座禅だったが、警策を受けて以降は、いつまでもその姿勢でいられそうな気がした。

途中の休憩時および食事の後で、禅に関する講和があった。

“禅とは分別を排して絶対に住す、その境地を目指すための修行”とのことだった。

つまり、我執、損得、善悪、黒白、良識など世間の価値基準にとらわれることなく、「あらゆるものが自然の中で関連を持ち合いながら必然的な存在としてある」ということを体感するための修行なのだ。

食後、全員が感想を述べ合った。しばししながら、世間のあらゆる雑事から脱却し、自然の中に溶け込んだような気分になれたと言う方が何名もあった。私のように(マラソンの記録向上が頭の中から抜けず)あの警策で叩かれたときの体の軸が常に作れたら走り役に役立つのではないかと、などと警策に強い関心を持った者など他に一人もいなかったようだ。

次回は少し精神的な面にまで修行を深めなければ、あの柔和で誠実でかつ真剣にお教えいただいた慈照師に申し訳ないというものだ。(反省そして合掌)

藤井 暉彦



◆ 健康は食から <前編>



食欲の秋。暑い夏が終わり、涼しくなると自然に食欲が湧いてきて食べるものが美味しく感じられます。これは寒い冬に備え、体が体力を温存しようとする自然の摂理でもあります。ですから、秋から冬にかけて採れる野菜も体を温めるものが多くなります。

しかし、現在の日本の食卓では旬を感じる事が少なくなってきました。トマトやほうれん草などは年中スーパーに並んでいます。ビニールハウスで早期収穫された野菜、農薬にまみれている野菜を毎日口にしなければならないのが、食料を輸入に頼っている日本の食事情です。

最近ニュースでよく耳にするのが、産地偽装問題、農薬などの薬物混入問題等々、私達が関知しないままに体に毒になるようなものを何年もの間、食べてきた可能性があるわけです。でも、今明らかになっている問題はほんの一部がクローズアップされているだけではないでしょうか?

私達動物は食べることでエネルギーを作り出し、生命を維持しています。ただ口にして美味しいだけではなく、口に入れたものをよく噛み、味わいながら食事を楽しむ・・・近年、時間に追われ、おなか膨れれば何でも良いというような悪い習慣が身についている人が多いようです。これが食品添加物の塊を食べることになり、体に毒素を溜めこんでしまう原因となるのです。

私は朝食に必ず果物を食べます。まだ果物に関しては一年を通して旬を感じることができます。秋になると梨や葡萄、冬になると定番のみかんがコタツの上に置かれます。朝の果物は“金”と言われる。野菜や果物には、体の毒素を排出してくれる働

きがあります。私達は口にしてしまった農薬や食品添加物といった体を害するものを早く体内から排出しなければならないということも忘れてはなりません。

四季という素晴らしい気候に恵まれた日本で、季節感あふれる食事をし、いつまでも健康で生き活きと“旬”の状態を維持したいですね。

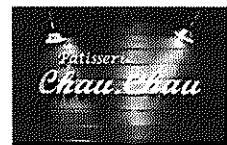
健康管理士 新田由美子



VECレポーターが行く!!

福島で「おいしいケーキ屋さん見つけた」

VECでおなじみの「社会保険労務士・山本佳愛」さんが大阪福島に手作りケーキのお店「Patisserie chau.chau」を今年6月にオープンされました。



なんと「chau.chau」の語源は聞くところによると関西弁で「ちゃう、ちゃう(違う、違う)」と山本先生らしいおもしろい発想で、スイーツ大好きな私は住所をたどりつつお店へ・・・

最近移転した朝日放送新ビルの近くにあり、あの辺りは路地が多いので探しながら行くのも私にとっては「へえ〜こんなお店もあるんだ・・・」と新たな発見がありました。

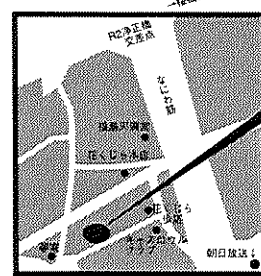
その中で近隣の街並みにマッチしつつ落ち着いた木目の看板で全面ガラスのひときわオシャレなお店が「Patisserie Chau.Chau」でした。

ショーケースの中には美味しそうなケーキがずらり・・・その中でも山本先生曰く、キャラメル・オレンジ(¥400)がオススメでオレンジピールとスポンジケーキが5層になりキャラメルとオレンジのムース系仕上げです。

又、他にはチーズケーキ、ロールケーキなどにはこのお店のキャラクターである「あひる」のかわいい焼印(このキャラクターは山本先生が以前飼っていたあひるらしいです)が入っており、リーズナブルなお値段にしては、もったいないくらいのお味のプリンなど本当にバラエティにとんでいます。

工房もガラス張りオープンなのでパティシエさんが忙しそうにスイーツを作っている光景を眺めながらコーヒー(¥100)も頂けます。

皆様お近くにお寄りの際は是非ともお立ち寄り下さい。尚、この「てんこもり」を持参され、スイーツご購入された方は粗品プレゼントをさせていた



手づくりケーキの店
Patisserie
Chau.Chau
営業: 11:00~20:00
定休日: 月曜日と第3日曜日
553-0003
大阪市福島区福島2-7-9
TEL/FAX 06-6451-5990

(レポート・濱本)

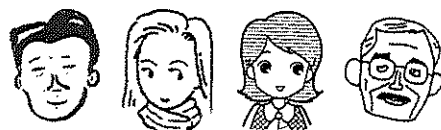
~VEC関西より~

◆「てんこもり」もいよいよ世界的規模の出会いの話。紛争地イスラエルの片隅で怪しげな中年(?)二人。面白いお話でした。我々は、比叡山の麓「最乗院」で瞑想の世界。宇宙を彷徨って来ました。これから紅葉、食欲の秋、風邪を引かないよう、食べ過ぎないよう気をつけましょう。(本田)

♥海外へ旅行するとよく思うのですが「歓迎」というおもてなしの素晴らしさです。いくら初対面でありながら言葉はうまく伝わらなくても人情味のある思い出深いものばかり・・・さて、私が反対の立場なら海外の方をどう満足のいくおもてなしが出来るのか、帰りの飛行機でまたもや1人考える次第でした。やっぱり私はいつでも「熱烈歓迎」です。(濱本)

◆地球規模でご活躍されているドキュメンタリー写真記者、森口さんからはこれからも世界の動きをメッセージしてもらいたいです。物づくりで色々な新製品を地道に作ってられる和田社長に来月号も書いて頂きます。(澤村)

◆〈年末交流会〉
12月3日(水) VEC理事・関西支部長 本田英行



☎:06-6263-0366